



コロナ禍における各大学の テレワーク・テレラーニングの状況と課題

Status and Issues of Tele-work/Tele-Learning at Each University in the COVID-19 Coronavirus Peril

小木哲朗¹⁾, 宮地英生²⁾, 江原康生³⁾, 石田智行⁴⁾

Tetsuro OGI, Hideo MIYACHI, Yasuo EBARA, and Tomoyuki ISHIDA

- 1) 慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 (〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1, ogi@sdm.keio.ac.jp)
- 2) 東京都市大学 メディア情報学部 (〒224-8551 横浜市都筑区牛久保西3-3-1, miyachi@tcu.ac.jp)
- 3) 大阪電気通信大学 情報通信工学部 (〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18-8, eba@osakac.ac.jp)
- 4) 福岡工業大学 情報工学部 (〒811-0295 福岡県福岡市東区和白東3-30-1, t-ishida@fit.ac.jp)

概要: 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行により, 社会的・経済的に世界各地で大きな影響を受けている。これは, 大学の教育・研究においても例外ではなく, 多くの大学では対面による講義の延期, あるいはオンライン講義の実施により学修機会の確保及び学修時間の確保に努めている。このような状況下において, 本オーガナイズドセッションでは, テレマージョンを広義に捉え, 各大学におけるテレワークやテレラーニングの取り組みや課題について議論する。

キーワード: テレマージョン, 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19), テレワーク, テレラーニング

1. セッションの概要

本セッションは, テレマージョン技術研究委員会のメンバーにより, 話題提供と議論を展開する。

特に今回は, コロナ禍における各大学のテレワーク・テレラーニングの状況と課題について議論する。

2. 登壇者紹介

■小木哲朗

1986年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了, 同年(株)三菱総合研究所入社, 1994年東京大学大学院工学系研究科博士課程修了, 1996年東京大学大学院工学系研究科助教授, 1999年通信放送機構研究員, 2004年筑波大学大学院システム情報工学研究科助教授を経て, 現在, 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授。ヒューマンインタフェース, バーチャルリアリティ, 臨場感コミュニケーション等の情報通信メディア技術に関する研究に従事。博士(工学)。

■宮地英生

1987年岡山大学工学研究科生産機械工学専攻修了, 1987年久保田鉄工株式会社(現:株式会社クボタ)入社, 1988年クボタコンピュータ出向, 1996年株式会社ケイ・ジー・ティー出向, 2005年株式会社ケイ・ジー・ティー入社, 2006年東京大学工学研究科機械工学専攻博士後期課程修了, 2011年サイバネットシステム株式会社入社, 現在東京

都市大学情報システム学科教授。3次元データの合成表示, 大規模3次元モデルの軽量化, 拡張現実のソフトウェア開発等の研究に従事。博士(工学)。

■江原康生

1997年東北大学大学院情報科学研究科システム情報科学専攻博士前期課程修了, 2000年東北大学大学院情報科学研究科システム情報科学専攻博士後期課程修了, 2000年京都大学大型計算機センター助手, 2008年大阪大学情報基盤推進本部講師, 2013年大阪大学情報推進機構/サイバーメディアセンター講師, 2016年京都大学学術情報メディアセンター特定准教授を経て, 現在, 大阪電気通信大学情報通信工学部教授。超臨場感コミュニケーション, 情報システム応用, 教育工学, 情報可視化応用等に関する研究に従事。博士(情報科学)。

■石田智行

2003年株式会社ノーザンシステムサービス入社, 同年情報通信機構若手IT研究開発支援センター出向, 2006年岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科博士前期課程ソフトウェア情報学専攻修了, 2006年岩手県滝沢市役所入庁, 2010年岩手県立大学大学院ソフトウェア情報学研究科博士後期課程ソフトウェア情報学専攻修了, 2013年茨城大学工学部助教を経て, 現在福岡工業大学情報工学部准教授。自治体との連携によるVR/ARアプリケーション等の研究に従事。博士(ソフトウェア情報学)。